

報道関係各位

2021年4月12日
筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所

長野県植物誌改訂委員会より植物標本 3,814 点の寄附を受ける

～研究・教育への活用を願って～

2021年3月15日、筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所（所在地：長野県上田市、所長：出川洋介准教授）は、長野県植物誌改訂委員会上田地区担当（川上美保子さん、他）より、そのメンバーらが中心となって作製した植物標本 3,814 点について、当実験所での研究・教育に役立ててほしいと寄附を受けました。これらの標本は極めて学術的価値が高いものであることから、今後当実験所が目指す「ワールド ICT ミュージアム構想」の展開に大いに寄与すると考えられます。

URL: <https://msc.tsukuba.ac.jp/news20210412>



◆概要

山国長野県は豊かな自然に恵まれています。身の回りにどんな生き物が生息しているのかについて、実態を明らかにし、把握することは重要です。1997年に刊行された「長野県植物誌」の改訂版を作成すべく、2017年より、長野県植物誌改訂委員会および有志の市民によって、県内各地で改訂のためのフロラ（植物相）調査が進められています。今回の改訂は2027年を目標としており、県内における絶滅危惧種の現状や、外来種の増加などを認識するために大いに役立つと考えられます。

◆特徴

フロラの実態を解明して把握するには、伝聞や写真記録だけではなく、実際にそこにその植物が生育していたという証拠標本（学術的にはバウチャーと称されます）を保存することが極めて重要です。それによって後から分類学的に検討したり、DNA情報を解析し様々な情報を得たりすることが可能となるためです。今回、長野県植物誌改訂委員会の上田地区担当メンバーらより寄附を受けた4000点近くの標本は、非常に丁寧に作製されていることに加え、専門家によって種同定されたバウチャー標本となっており、学術的価値も極めて高いものであるといえます。

◆今後の展開

筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所は、開設以来87年間の教育研究活動を通じて、東信地域の自然史に関する情報の集積、発信に努めてきました。東信地域には核となる自然系の博物館が少ないことから、地域に根差した博物館としての機能を担うことを目指し、「フィールドICTミュージアム構想」を進める予定です。そのなかで、今回の寄附を含めた当実験所が保管する約13,000点の標本試料をはじめ、生物多様性学、生態学、気象学、土壌学など、山岳を対象とした自然科学に関するデータを集約し、オンラインによる公開や、生涯教育への還元といった社会貢献活動への展開も検討しています。

◆施設概要 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所

所在地：長野県上田市菅平高原 1278-294

URL: <https://msc.tsukuba.ac.jp/>

◆本件に関するお問い合わせ先

担当者： 出川 洋介

電話番号： 0268-74-2002

メールアドレス： degawa@sugadaira.tsukuba.ac.jp